

新緑の六甲山を思い思いのペースで歩く「第8回神戸・六甲山ツデーウオーク」が14日、開かれた。家族連れら1590人が3カ所のスタート地点から出発し、爽やかな汗を流しながら自然を満喫。

ゴール地点の六甲山カンツリーハウス（神戸市灘区六甲山町）には、多彩な体験ブースがあり、災害を防ぐ砂防堰堤の役割を学ぶなどした。

（村上晃宏）

六甲山ツデーウオークに1590人

新緑に包まれ大自然満喫

ゴール目指し爽やかな汗



阪急電鉄や阪神電気鉄道の神戸新聞社などで行った。13日は雨の影響

で中止になったが、14日は快晴に。王子公園発の約12

気分転換できた」と汗をぬぐった。



模型で砂防堰堤の役割説明も

3コースが設けられた。3コースは主に家族連れが参加。厳しい勾配に「疲れた」とぐずる子どもを抱きかかえたり、肩車したりする親の姿も。それでも、鳥のさえずりや神戸の街並みを楽

ゴールに設けられた国交省近畿地方整備局六甲砂防事務所ブースでは、土石流を食い止める砂防堰堤の役割を実験模型で説明。雨で大きな石が流れても堤防でせき止められる様子が再現された。子どもらは土石流が起きる前兆などを学び、防災への意識を高めた。

しみながら歩いていた。3コースに参加した加古川市の京塚はるなちゃん(5)は「森の空気がおいしかった」と笑顔。王子公園発のコースを歩いた神戸市須磨区西落合6、山口賢三さん(72)は「久しぶりの六甲登山」

六甲山の新緑の中を歩く家族連れ。神戸市灘区六甲山町

土石流を防ぐ砂防堰堤の役割を模型で説明するスタッフ。六甲山カンツリーハウス